

トップニュース：福井駅前商店街が駅前電車通りの整備受け入れへ

このたび、懸案だった福井駅前電車通りの整備事業を福井駅前商店街が受け入れ、10月中旬の着工を目指すことになりました。

この事業は福井市が進める「賑わいの道づくり事業」。もともとトランジットモールとしての整備も想定していたのですが、車社会とあって商店街の賛成が得られず、市が何度も修正案を提示してきた結果、軌道を単線としたうえで、車道や荷さばきスペースを極力ひろげる案に修正すること等で福井駅前商店街振興組合が受け入れることとなりました。

この事業はそもそもROBAの会が誕生するきっかけにもなった事業で、当初からROBAの会のメンバーもいろいろな形で関わってきましたが、ようやく着工に向けて歩み始めることになりました。駅前商店街が導入を求め、ROBAの会が想い描いたLRVについては、「研究」という言葉に落ち着いたようで、ROBAの会としてもこの部分については、駅前商店街とともに根気強くはたらきかけていくことになりそうです。

いずれにしても、今よりもはるかに多くの来街者が訪れる活気ある“まち”に生まれ変わることを期待したいですね。

(文：清水)

活動報告

- 7月26日 シンポジウム企画委員会
7月28日 電車分科会（都市再生モデル調査提案）
7月29日 バス分科会
8月4日 電車分科会（都市再生モデル調査提案）
8月5日 NPO分科会
8月7日 市民活動セミナー「コラボしよう！2003」準備会議
8月10日 えちぜん鉄道西長田—三国港間運行開始
8月19日 シンポジウム企画委員会
8月19日 市民活動セミナー「コラボしよう！2003」準備会議
8月22日 8月例会・懇親会

今後の予定

- 8月23日（土） ROBA 効強会「まちづくり調整委員会報告」
8月27日（水） 県都市計画説明会（福井）
8月29日（金） 高岡・「戸出キャラバン」の見学会
9月10日（水） まちづくり懇談会第十二回
9月12日（金） 県都市計画（福井・嶺北北部）公聴会
9月16日（火） 9月作業部会（各分科会・連絡会）
9月26日（金） 9月例会
9月27日（水） 県都市計画説明会（福井）
9月 隨時 電車分科会
9月 隨時 バス分科会
9月 隨時 NPO分科会
9月 隨時 シンポジウム企画委員会
9月 隨時 市民活動セミナー準備会議
9月 隨時 ROBA シンポ乗り継ぎ隊実施

ゆうじんの部屋 書籍紹介

「都市鉄道の次善料金形成」

副題 自動車交通との競合下での理論

著者 鈴木崇児 出版社 勲草書房 3500円

メールアドレスを「都市経済研究所」としている人にはぜひお読み頂きたい。数式一杯の理論書である。私も、数式は十分理解できないので、読み飛ばしたが、それでも数式部分は専門家に任せて、自分の考えを整理するには十分読み応えのある本であった。鉄道事業の採算性は本当に採る必要があるのか、補助金はいかに正当化されるのか。そうした議論が煮詰まってきたら、ぜひ読むべき本である。理論書でありながら、著者の公共交通を大事にしたい思いが感じられる好著である。

私がいろいろ言ってきた鉄道プロジェクトの費用便益分析も、この本の中の関数を線形と仮定したり、定数と仮定したりして、簡便な実用分析が行われているのであるが、そうした入手可能なデータを用いた分析が、この本の理論の応用として正当化するような研究が待たれるところである。ぜひ鈴木先生には、えちぜん鉄道の最適運賃を計算していただきたいものである。

(文・美濃部)

公共交通活性化電車Gからの報告

全国都市再生モデル調査に応募しました。締切日8月8日ぎりぎりで、なんとか手を上げることができました。8月中には第1次審査があると思います。その後の活動はみんなで協力してやらなければできないのでよろしくおねがいします。ROBAの会と福井大学、コンサルタントが三位一体で、地域の活動グループの協力を得ておこなう、会としてはもちろん福井県としてもはじめての本格的な共同プロジェクトになるかと思います。

■ 全国都市再生モデル調査 ■ えちぜん鉄道存続に伴う公共交通のまちづくり調査

- 応募団体：ふくい路面電車とまちづくりの会（ROBAの会）
- 推薦団体：福井県都市計画課、総合交通課、えちぜん鉄道支援課
- 調査名：えちぜん鉄道存続に伴う公共交通のまちづくり調査
- 対象地域：福井広域都市圏（福井市、鯖江市、坂井郡、吉田郡他）

(1) テーマ 課題：

- ・過度の車依存社会が福井都市圏の再生を阻害している
- ・えちぜん鉄道は存続したが今後の再生への課題が山積
- ・鉄道存続運動の住民パワーをまちの再生に転換したい
- ・県市で公共交通ビジョンは作成されたが浸透度が低い
- ・理解しやすく、判断しやすい交通施策イメージが必要

(2) 活動内容の案：

- ・まちと公共交通の将来像を鉄道存続支援グループ、まちづくりグループと協働で複数プランにまとめ市民で議論
- ・県内大学の研究チーム、まちづくりコンサルタント、県内外NPOの積極的な参画による専門性の発揮
- ・市民の判断材料となるようビジュアルで解かりやすいイメージとして、公共交通の将来像（複数案）を策定
- ・パネルセッションや地域キャラバン等により市民との意見交換を行い、将来像への市民の評価をまとめる

(3) 先導性等のアピール点

- ・鉄道存続運動からまちづくり活動への展開
- ・市民県民の共有空間を生かした都市再生まちづくりが、利害関係調整でなく、協働まちづくりとして進められる
- ・NPOが主体となって、一般市民と協働で、さまざまな地域にあったまちづくりが展開されていくこと

(4) 期待される効果：

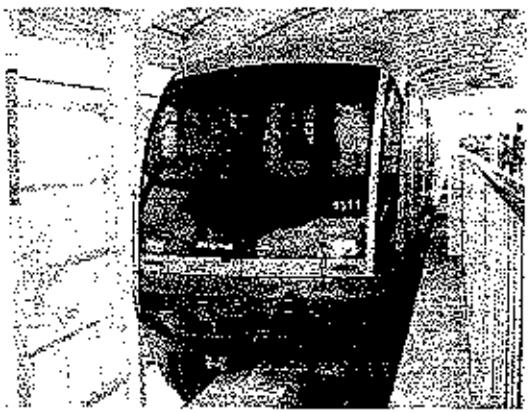
- ・鉄道存続運動の過程で培われた住民の力が都市再生活動に向けられ、多様な住民主体のまちづくりが展開される
- ・県市の生活交通ビジョンの実現に向けて、市民の理解促進、合意形成が進められる
- ・まちづくりにあわせて地域公共交通が効率的に再構成され都市再生が進められる

(5) 実施体制：

- 主 体：ROBAの会+福井大学川上研究室+まちづくりコンサルタント
その他の地域NPO、全国のNPO、地域鉄道存続支援グループ、地域まちづくりグループ、鉄道事業者、バス事業者、市町村、県などとネットワークを形成

(6) 調査の手順

1. 福井広域都市圏のまちづくりと公共交通の実状と課題の整理
2. 住民主体のまちづくりと公共交通の実状点検と展開方策の検討
3. まちづくりグループとの協働作業による将来像の検討
4. 調査の実施：①公共交通のまちづくり将来像のビジュアルイメージ作成、②ホームページ作成、公開
③パネルセッション、④地域ワークショップキャラバン、⑤将来像への市民の評価の収集、とりまとめ
5. 調査のまとめの作成：次年度以降のNPO等によるアクションプログラムのとりまとめ（文・林 博）



沖縄「ゆいレール」搭乗記

8月12日夏休みに沖縄へ行った時、空港での待ち時間を利用してゆいレールに搭乗してきました。事前のパンフでは15年12月開業となっていましたが、開業は8月10日。くしくも、えち鉄三国芦原線の開業と同日となりました。

那覇空港から首里まで12.9km、運転間隔は6.5分～12分、最高速度60km/h、表定速度28km/h、駅数

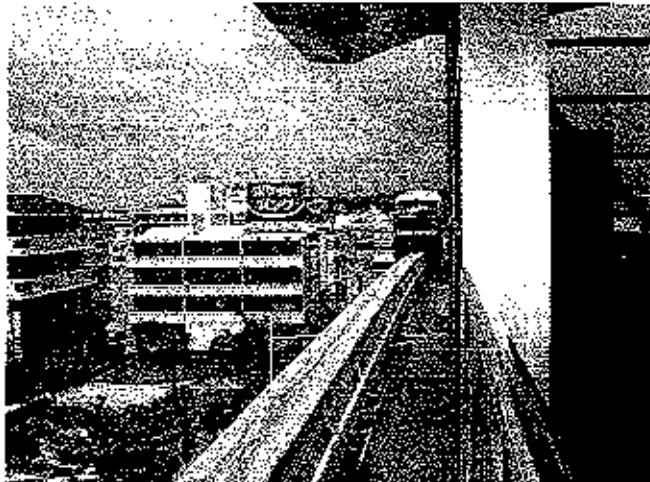
は15駅、運賃は初乗り200円・最高290円です。

運行は沖縄都市モノレール株が行ないます。（第三セクター）なお、インフラ部（軌道構造物）等は国・県・市が負担、車両・駅施設・線路・通信は三セクが施行しています。

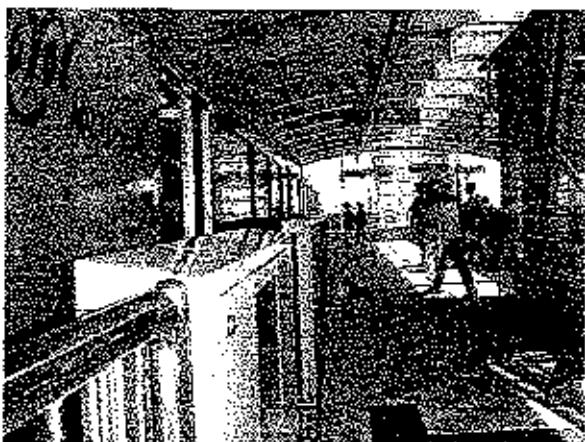
沖縄は慢性的な交通渋滞や急激な都市化に道路整備が追いつかず、都市機能の低下・生活環境の悪化が課題となっていました。

そこで、まちづくりの一環としての中核のプロジェクトがこのモノレールなのです。

その日（8月12日）は沖縄の旧盆にあたり、多くの帰省客もあった為か、家族ずれで満員の状態でした。20mの高さからの眺望は良く、空港ターミナルから走り出すと、乗客の“ウォー”というため息とも歎声ともつかない声が車両の中を埋め尽くす。



20mの高さを走行

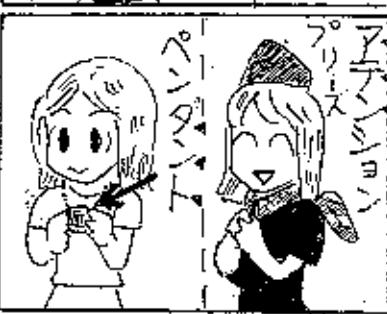
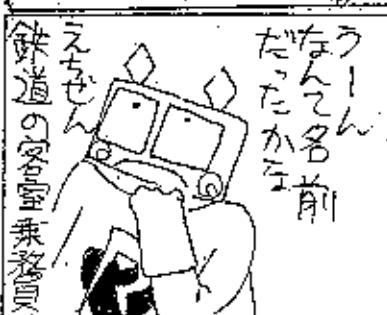


安全柵やホームドア（自動）を設置

各駅には、バスターミナル（交通広場）やダイエー・ジャスコといったショッピング街が配置され、集合住宅街・県庁・市役所・病院・文化施設を繋ぐとともに、路線バスとの結節を考慮した配置となっています。空港や病院の連絡デッキ等生活者の公共交通といった配慮が感じ取れました。

（記・内田桂嗣）

快速 路面電車ライター



作…漆崎耕次

編集後記……編集委員より一言！

林（編集長）

「ROBANEWSは夏休みなしです。グスン……」

清水（副編集長）

「今年は……静かな夏でした」

川口（副編集長）

「俺の夏はまだ始まってないぜ！」

内田（発行責任者）

「やっぱ、夏は暑くないと、夏は……」

■ 第11回まちづくり懇談会の報告 ■

日 時：平成15年7月24日（木）19:00～21:30

場 所：五十嵐ビル6F（駅前商店街会議室）

参加者：ROBA/清水、佐藤、川口、坂川、内田 福大/清水
まちなかNPO/村北、伊井、永井、大森、五十嵐

議 題：福井工大 4年 古木さんの研究発表

「駅前・順化地区再生計画に関する私案」

- ・20～30年先の福井市を考えた場合、コンパクトシティを目指さなければならない。
- ・中心市街地を福井駅を中心に徒歩20分圏内の半径1.2Km以内として開発すべき
- ・中心地に集合住宅により居住人口を増やす
- ・移動手段として、車をはずしてはいけない

等々の提案がありました。

●まだまだ、ラフな青写真で具体的な提案書はありませんでした。また、今は研究の構想段階であり、今後現場実態調査や歴史的な考察を経て研究論文の完成を求めました。

●次回

第12回まちづくり懇談会について

日時：9月10日（水）19:00～21:00 場所：五十嵐ビル6F

議題：研究発表 第3弾

「京福電車運休が沿線住民へ与えた影響」

発表者：福井大学大学院生 川口充康

川口さんの卒論のテーマであった掲題の発表です

（文・内田）

★バックライト内臓のデスク譲ります、図面のトレースなどに便利です。

（詳しくは林照まで）

事務局

ふくい路面電車とまちづくりの会

910-8031 福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968 e-mail : roba@mbh.nifty.com

URL : homepage2.nifty.com/tram-fukui